

手をつなごう2007

平成19年 8月18日
岡山県立東備養護学校
支援部だよりNO. 13

公開講座

今号も引き続き公開講座の報告です。

講座1を実施した8月2日には台風が接近しており、すぐ次の日に実施予定の講座2が開催できるかどうか関係者一同大変心配していました。しかし、講師の野崎先生が前日から岡山に来てくださったおかげで、無事開催することができました。(夕刻にはマリライナーが止まっており、フェリーで、しかも欠航になる直前の便でお出でくださいました！)

どの講師の先生もお忙しい中、この講座のために資料を作ってください、時間をやり繰りしてかけてくださいました。本当にありがとうございました。

参加者のアンケートより講座2

四国学院大学准教授 野崎晃広先生

「障がいのある子どもへの家庭・地域における支援の在り方」

保護者 今までのどんな障害に関する講演会よりも、良かったです。保護者の立場・心情を先生方に伝えてくださり、本当にありがとうございました。

小学校教諭 親の本音、不満の紹介をしていただくことで、私達が知らず知らず陥りやすい対応の誤りに気付かされました。特に、経験の中で、自分の法則で、子どもや家族のニーズを見てしまいがちになるということなど、重要な気付きでした。障害のある子だけでなく、不登校などの課題を持つ子ども・家庭のかかわりにも共通するたくさんのご示唆をいただき、有意義でした。

特別支援学校教諭 教員として一人ひとりの子どものニーズの受け止め方、それを学校で、将来社会でどう生かせるように支援していけるか、日々の取り組みの姿勢を考えさせられました。家庭との連携をしっかりと行い、皆が成功経験を積めるよう日々の実践に取り組んでいきたい。

保護者 親しか信じてやれる人間はいないと
思いながら、受け皿の無さを悲しく
思っていた矢先だけに、涙が出そうになりました。
親としてのやる気と元気をもらいました。

参加者のアンケートより講座3



岡山障害者職業センター所長 谷口大司先生
「企業での就職をめざして」

中学校教諭 今この時期から気を付けてあげなければならないことにも気づくことができ、また、進学先でもサポート体制があるということで心強く思いました。資料でいただいた車いすの方のお話を学校に帰って生徒に話してやりたいと思いました。ありがとうございました。

事業所 障害者の方を雇用していますが、雇ったら後は現場にお任せでは、現場の職員も手一杯の状況で業務をこなしているので、なかなか障害者のことにまで気がまわりません。障害者自身の性格的な面や、コミュニケーションの面でも難しいことが多々あります。まだまだ、企業・事業所として学習しながら克服しなければならない諸課題があると思います。

特別支援学校教諭 企業の求める能力についてよく分かりました。日常生活の指導、本人の意識改革、保護者・教師の意識改革の必要があることが分かりました。2学期から就労時期に間に合うよう、気長に根気強く能力育成に努めたいと思いました。

保護者 障害を持ち、多くの課題を抱えながら就職することの難しさがよく分かりました。また、どのような視点で子どもを見て、今後の方向付けを検討していけばよいのかとても参考になりました。障害児をもつ親としては、ジョブコーチをどんどん広めてもらえると心強いです。